

# 環境経営レポート 2024 年度版

(対象期間 2024 年 7 月～2025 年 6 月)



®環境省

エコアクション21  
認証番号 0000271

内田工業株式会社  
発行日 2025 年 11 月 28 日

## 目次

1. 組織の概要
2. 実施体制
3. 環境経営方針
4. 環境経営目標
5. 環境経営計画
6. 環境経営目標の実績・取り組み結果並びに次年度の環境経営目標
7. 環境経営計画の取り組み結果とその評価、および次年度の環境経営計画
8. 環境関連法規などの遵守状況の確認および評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無
9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

## 1. 組織の概要

### 【1】 事業者名および代表者名

内田工業株式会社  
代表取締役：内田 成俊

### 【2】 所在地

〒433-8103  
静岡県浜松市中央区豊岡町 307-7  
TEL : 053-438-7711  
FAX : 053-438-0224  
URL : <https://www.uchida-kogyo.jp/>

### 【3】 事業の概要

金属製品（治具・金型など）の設計、製作  
金属製品試作部品の製造

### 【4】 事業規模

従業員数：10 名  
床面積：1,378 m<sup>2</sup>

### 【5】 環境管理責任者

久米 昭宏

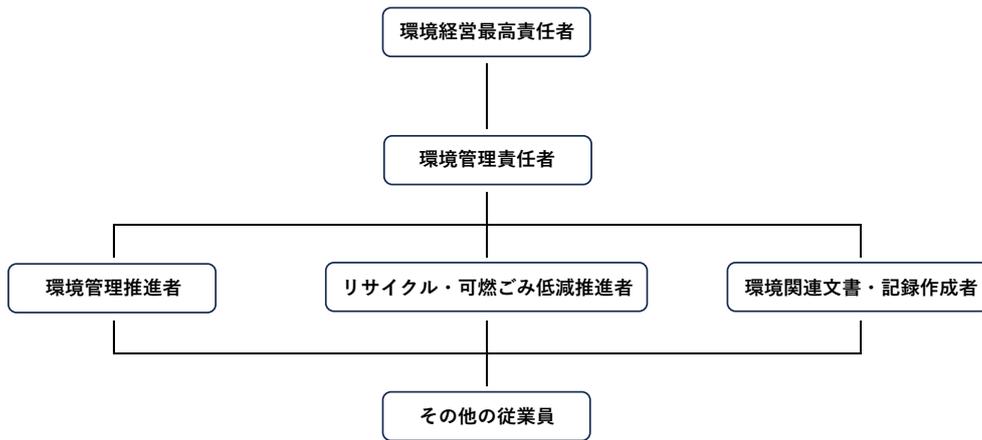
### 【6】 沿革

創業：1961 年  
エコアクション 21 認証・登録：2005 年 4 月 26 日  
認証登録番号：0000271

### 【7】 対象範囲

同事業所内 UCHIDA System Management 有限会社の協力体制のもと、全組織・全活動（事業活動および製品・サービス）を対象とする。

## 2. 実施体制



### 【役割分担】

#### 環境経営最高責任者

- ・ 環境経営全般に関する責任と権限を有する。
- ・ 経営における課題とチャンスを整理し、明確にする。
- ・ 環境経営方針の制定および改定。
- ・ 環境経営システム全体の評価と見直し。

#### 環境管理責任者

- ・ 環境経営目標および環境経営計画の作成。
- ・ 環境経営システム全般の管理。
- ・ 環境経営最高責任者へ取組状況を報告する。

#### 環境管理推進者

- ・ 環境経営システム全般の運用。
- ・ 環境上の緊急事態の想定と対応策の策定および全体訓練の実施。

#### リサイクル・可燃ごみ低減推進者

- ・ リサイクル・可燃ごみ低減活動のための情報を収集し、活動へ反映させる。

#### 環境関連文書・記録作成者

- ・ 環境負荷データ等の集計。
- ・ 「環境負荷」および「環境への取組」の自己チェックの実施。
- ・ 環境関連法規等の遵守状況チェック。
- ・ 環境経営レポートの作成。

#### その他の従業員

- ・ 環境経営方針を遵守し、環境経営目標を達成するために努める。

### 3. 環境経営方針

当社は、事業活動を進めていくなかで、環境保全を最重要課題のひとつとして認識し、地球環境と地域社会の調和を保ちながら発展していくことを目指します。

- 【1】 人と地球にやさしい事業活動を行い、環境負荷の低減に努める。
- 【2】 環境経営システムを効果的に運用することおよび環境保全に努めることにより、継続的な改善を図る。
- 【3】 環境に関する法規制を遵守し、地域との連携を密に行動する。
- 【4】 当社が行う環境活動は、以下を重点項目とする。
  - (1) 工場、事業所内での省資源、省エネルギーの取り組み
  - (2) 廃棄物、排出物の低減
  - (3) 化学物質の外部への流出防止の徹底
  - (4) 上記事項の管理の徹底
  - (5) 製品・サービスの向上において、精度向上、生産性向上、耐久性向上を図り、顧客への生産性向上のみならず環境改善に努め、世の中に貢献する。
- 【5】 全従業員への環境経営方針の周知徹底
- 【6】 本方針に基づき環境目標を定め、環境経営計画に沿って自主的かつ積極的に活動を展開するとともに、定期的な見直しをする。

制定日 2003年3月31日

改定日 2014年7月25日

改定日 2020年6月3日

改定日 2021年3月16日

代表取締役 内田 成俊

#### 4. 環境経営目標

		2021-2023平均	2024	2025	2026
		基準値	目標	目標	目標
生産高指数		259,630	272,612	285,593	298,575
			5%	10%	15%
実数	二酸化炭素排出量(kg-CO2)	85,829	89,219	92,533	95,772
	電気使用量(kWh)	198,564	206,407	214,074	221,566
	ガソリン使用量(L)	1,798	1,869	1,938	2,006
	ガス使用量(kg)	75	77	80	83
	産業廃棄物排出量 (kg)	4,589	4,770	4,947	5,121
	廃油排出量 (kg)	3,087	3,209	3,328	3,445
	混合廃棄物排出量 (kg)	1,293	1,344	1,394	1,443
効率化指数	二酸化炭素排出量	0.33	0.33	0.32	0.32
			-1%	-2%	-3%
	電気使用量	0.76	0.76	0.75	0.74
			-1%	-2%	-3%
	ガソリン使用量 (×100)	0.69	0.69	0.68	0.67
			-1%	-2%	-3%
	ガス使用量(kg) (×1000)	0.29	0.28	0.28	0.28
			-1%	-2%	-3%
産業廃棄物排出量 (kg) (×100)	1.77	1.75	1.73	1.72	
		-1%	-2%	-3%	
廃油排出量 (kg) (×100)	1.19	1.18	1.17	1.15	
		-1%	-2%	-3%	
混合廃棄物排出量 (kg) (×100)	0.50	0.49	0.49	0.48	
		-1%	-2%	-3%	
一般廃棄物 (kg)		216	216	216	216
水使用量 (m <sup>3</sup> )		170	170	170	170
製品・サービスの環境性能向上		1件/年	1件/年	1件/年	1件/年
化学物質		適正管理	適正管理	適正管理	適正管理

※1 目標値の見直しを行った為昨年度のレポートと目標値が異なります。

※2 今年度より一般廃棄物・水使用量・製品・サービスの環境性能向上値を除く項目は過去3年間の平均値を求め、生産高指数を基に数値化した効率化指数により目標値を定めるとする。

※3 電気の二酸化炭素排出係数は、中部電力ミライズの調整後排出係数（2020年度実績）「0.377kg-CO2/kWh」を使用しています。

## 5. 環境経営計画

環境経営計画においては、2024年度より、連日の猛暑による空調設備の性能向上、電力低下の為に新たに「室外機カバー」を設置することとした。しかし、今年度はすべての室外機に設置しておらず、効果を検証し、来年度以降も順次室外機にカバーを設置する意向である。

また、2025年2月よりこれまで使用していたガソリン車である社用車を新たなハイブリッドカーと乗り換えることとなった。

	活動内容	期間	責任者
電気使用量低減	空調温度適正設定（夏季 25℃、冬季 20℃） ※一部例外あり	2015年度～継続	環境管理推進者
	外気活用による空調停止	2015年度～継続	
	使用していない設備や機器の電源 OFF	2015年度～継続	
	使用していない場所の消灯、外光活用	2015年度～継続	
	空調設備・工作機械フィルターの定期的清掃	2015年度～継続	
	蛍光灯の LED 化	2022年度～継続	
	空調設備の高効率化更新	2022年度～継続	
	室外機カバーによる電気使用量の低減	2024年度新規	
燃費向上	「ふんわりアクセル」「早めのアクセルオフ」 を心がける	2017年度～継続	環境管理推進者
	ハイブリッドカーの導入	2024年度新規	環境管理推進者
ガス使用量低減	冬季、温水を流しっぱなしにしない	2015年度～継続	環境管理推進者
一般廃棄物 排出量低減	コピー用紙の裏紙利用	2015年度～継続	リサイクル・可燃ごみ 低減推進者
	雑紙リサイクル推進	2017年度～継続	
	DX 促進によるペーパーレス化	2023年度～継続	
産業廃棄物 排出量低減	梱包資材（段ボール、緩衝材）のリユース推進	2019年度～継続	環境管理推進者
廃油 排出量低減	専用装置で工作機械のクーラント液の汚れをこまめに除去	2022年度～継続	
	汚れた軍手・ウエスを掃除時にリユース	2015年度～継続	
混合廃棄物 排出量低減	分別強化し、金属リサイクルに回す	2018年度～継続	
水使用量低減	水を流しっぱなしにしない	2015年度～継続	
製品・サービスの 環境性能向上	製品・サービスの環境性能向上を推進する	2020年度～継続	
化学物質の管理	油の漏れがないか日常点検	2024年度～新規	

6. 環境経営目標の実績・取り組み結果並びに次年度の環境経営目標

		2021-2023平均	2024	2024	評価	2025
		基準値	目標	実績		目標
生産高指数		259,630	272,612	431,114	◎	285,593
			5%	66%		10%
実数	二酸化炭素排出量(kg-CO2)	85,829	89,219	79,641		92,533
	電気使用量(kWh)	198,564	206,407	198,861		214,074
	ガソリン使用量(L)	1,798	1,869	1,910		1,938
	ガス使用量(kg)	75	77	80		80
	産業廃棄物排出量 (kg)	4,589	4,770	7,296		4,947
	廃油排出量 (kg)	3,087	3,209	4,230		3,328
	混合廃棄物排出量 (kg)	1,293	1,344	2,681		1,394
効率化指数	二酸化炭素排出量	0.33	0.33	0.18	◎	0.32
			-1%	-44%		-2%
	電気使用量	0.76	0.76	0.46	◎	0.75
			-1%	-40%		-2%
	ガソリン使用量 (×100)	0.69	0.69	0.44	◎	0.68
			-1%	-36%		-2%
	ガス使用量(kg) (×1000)	0.29	0.28	0.19	◎	0.28
			-1%	-35%		-2%
産業廃棄物排出量 (kg) (×100)	1.77	1.75	1.69	○	1.73	
		-1%	-4%		-2%	
廃油排出量 (kg) (×100)	1.19	1.18	0.98	◎	1.17	
		-1%	-17%		-2%	
混合廃棄物排出量 (kg) (×100)	0.50	0.49	0.62	×	0.49	
		-1%	25%		-2%	
一般廃棄物 (kg)		216	216	317.9	×	216
水使用量 (m <sup>3</sup> )		170	170	160.5	○	170
製品・サービスの環境性能向上		1件/年	1件	1件	○	1件
化学物質		適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理

※1 目標値の下段の%に関しては基準年からの増減目標である。

※2 実績値の下段の%に関しては目標との差である。

※3 評価の基準は下記に示す

◎：目標達成 + 基準値より 10%以上改善

○：目標達成 + 基準値より 10%未満改善

△：目標未達成 + 基準値との差が 10%未満

×：目標未達成 + 基準値との差が 10%以上

(1) 二酸化炭素排出量について

2024 年度の二酸化炭素排出量は 79,641kg-CO<sub>2</sub> (効率化指数 : **0.18**) と推移し、目標値 78,470kg-CO<sub>2</sub> (効率化指数 : **0.33**) を約**-44%**と大きく下回った。

昨年同様実績値 (**0.26**) と比較しても大きく下がっていることが分かる。

※以下より効率化指数にて評価をする。

電気使用量の効率化指数は **0.66** → **0.46** と推移し、**約 30%の改善** がみられた。空調設備の省エネタイプへの更新や照明の LED 化といった施策の効果が継続的に発揮されており、電力利用の効率性が一層高まっている。工場内にはまだ改善効果のある設備がある為、予算の調整により更なる設備更新を目指したい。

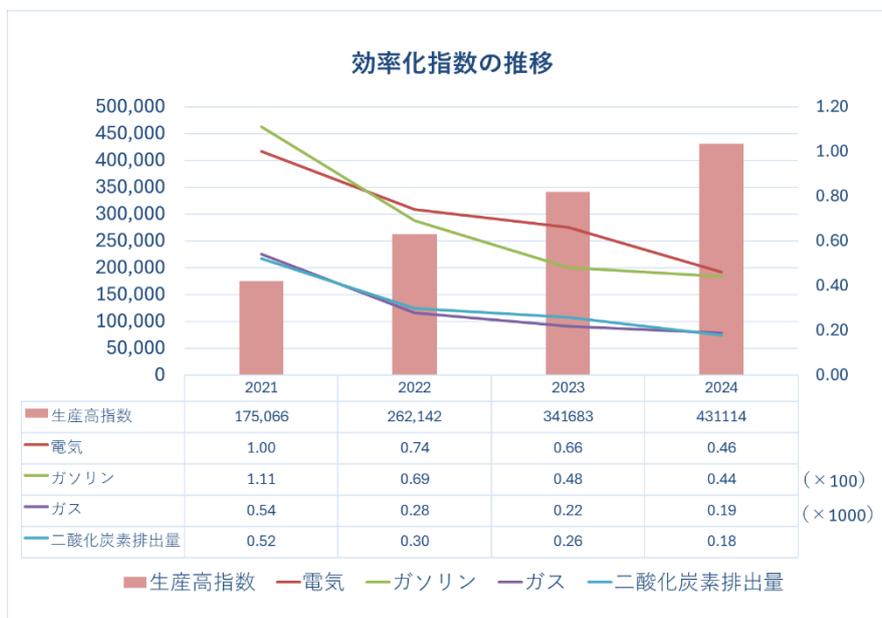
ガソリン使用量の効率化指数は **0.48**→**0.44** と推移し、**約 8.3%の改善** が確認された。総使用量自体は増加したものの、効率化指数より、生産量の拡大に対して燃費が向上している。特に、2 台のハイブリッド車の導入効果が寄与していると考えられる。

※ガソリン使用量に関しては[13p]でも改めて触れていく。

ガス使用量については効率化指数に大きな変化は見られなかったが、全体としては主要なエネルギー利用において効率改善が進展している。ガス使用量に関しては油掃除などによるものが多く削減方法を思案している。

以上の結果から、2024 年度は二酸化炭素排出量総量を抑制しつつ、生産規模拡大に対応した効率的なエネルギー利用を実現できており、環境経営における目標を十分に達成していると評価できる。

以下に年度別の電気使用量の効率化指数、ガス使用量の推移、ガソリン使用量の推移を示す。



## (2)一般廃棄物排出量について

2024年度の一般廃棄物排出量は317.9kgとなり、過去3年間の平均値である216kg（2021-2023年度実績の平均値）を大きく上回る結果となった。

この増加は、昨年度からの傾向に続くものであり、特に機器の搬入や倉庫の増設といった業務拡張に伴う一時的な排出量の増加が主な要因である。

月別の排出量を見ると、12月（35.9kg）および1月（30.4kg）において平均を上回る数値が記録されている。

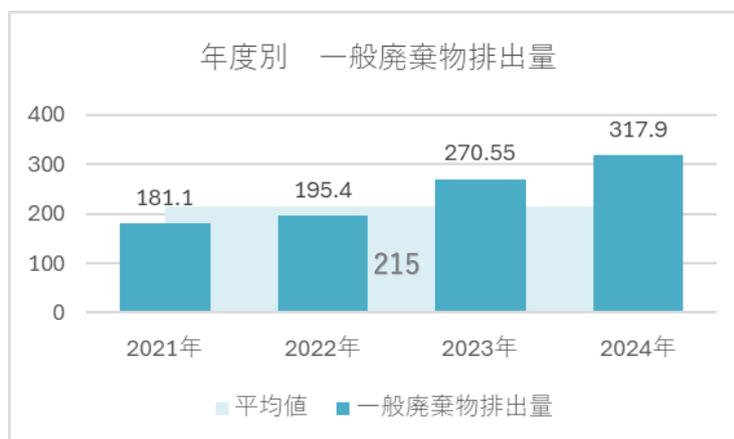
年末年始には大掃除が重なるほか、近年では社内設備の増加に伴い、新設備設置場所の確保を目的とした大規模な廃棄物処理が行われていることも影響していると考えられる。

一方、年間を通じては25kg前後の排出量が安定して推移しており、通常業務における排出管理は一定の水準で維持されていると評価できる。

社内では、紙のリユース・リサイクルに対する意識が定着しており、従業員による日常的な取り組みが継続されている。

来年度以降は、新たな図面管理システムの導入を検討しており、DX推進によるペーパーレス化を進めることで、一般廃棄物の更なる削減を目指す方針である。

なお、現時点でも5月から6月にかけて社内のDX設備導入に向けた下準備として、LAN・HUB配線の工事を実施したほか、新たなルーターやクラウドによるファイル管理設備の導入を行っている。これらの施策は、今後の業務効率化と環境負荷低減の両面において効果を発揮することが期待される。



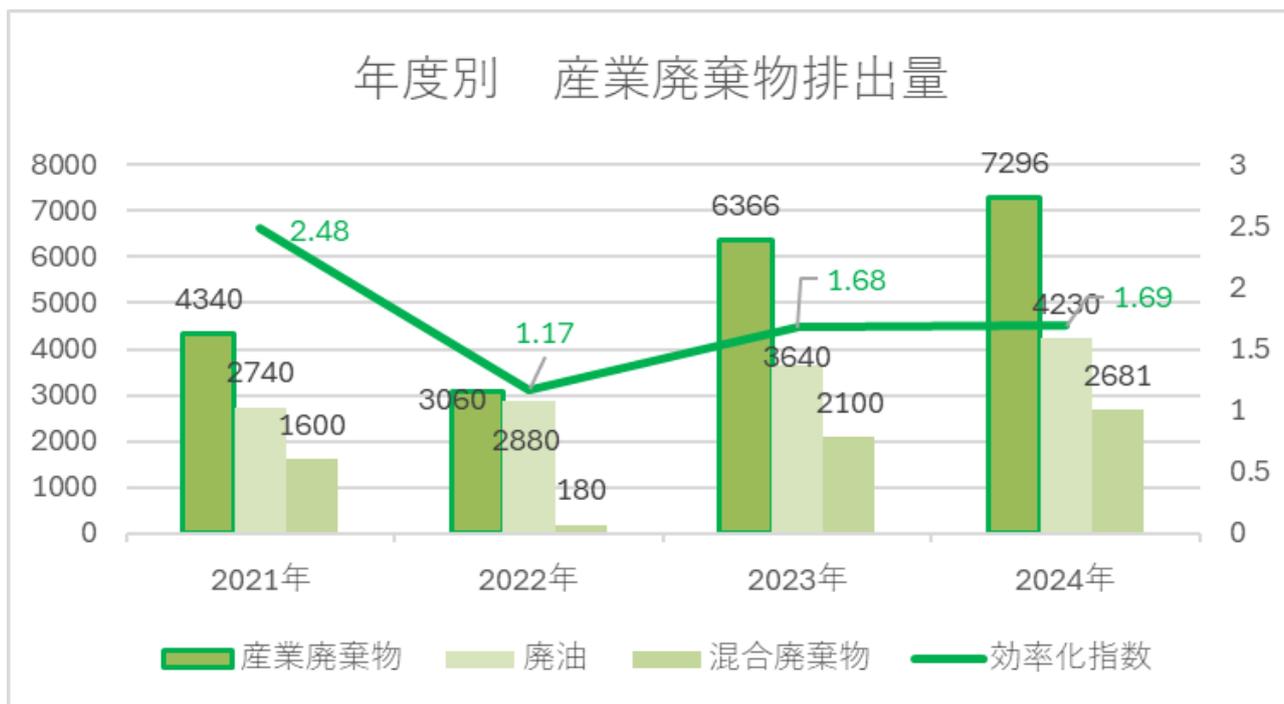
### (3) 産業廃棄物排出量について

2019年度から2024年度にかけて、実数として産業廃棄物排出量は全体的に増加傾向にある。特に2023年度以降、廃油および混合廃棄物の排出量が急増しており、業務内容や処理工程の変化、機械の導入に伴う社内のレイアウト変更が影響していると考えられる。

この傾向は、設備の稼働率上昇や生産工程の複雑化に伴い廃棄物の発生量が増加したことが要因と推察される。特に廃油については、機械の稼働時間やメンテナンス頻度の変化、さらに一部の機械の機械油の総入替を行ったことも大きく影響する。

一方で効率化指数に着目すると、2023年度にやや上昇が見られるものの、直近3年間は概ね一定の水準を維持している。これは稼働率に対して排出量が適切に抑えられていることを示しており、廃棄物管理の効率化が一定の成果を上げていると評価できる。

2025年度以降は、排出量の増加を抑制し、環境負荷を軽減するために、「分別精度向上」「再資源化推進」「社内意識改革」「組織づくり」等の取り組みを計画的に進めていく。効率化指数を安定的に維持しつつ、廃棄物削減と生産性向上を両立させることで、持続可能な事業活動を実現していく。



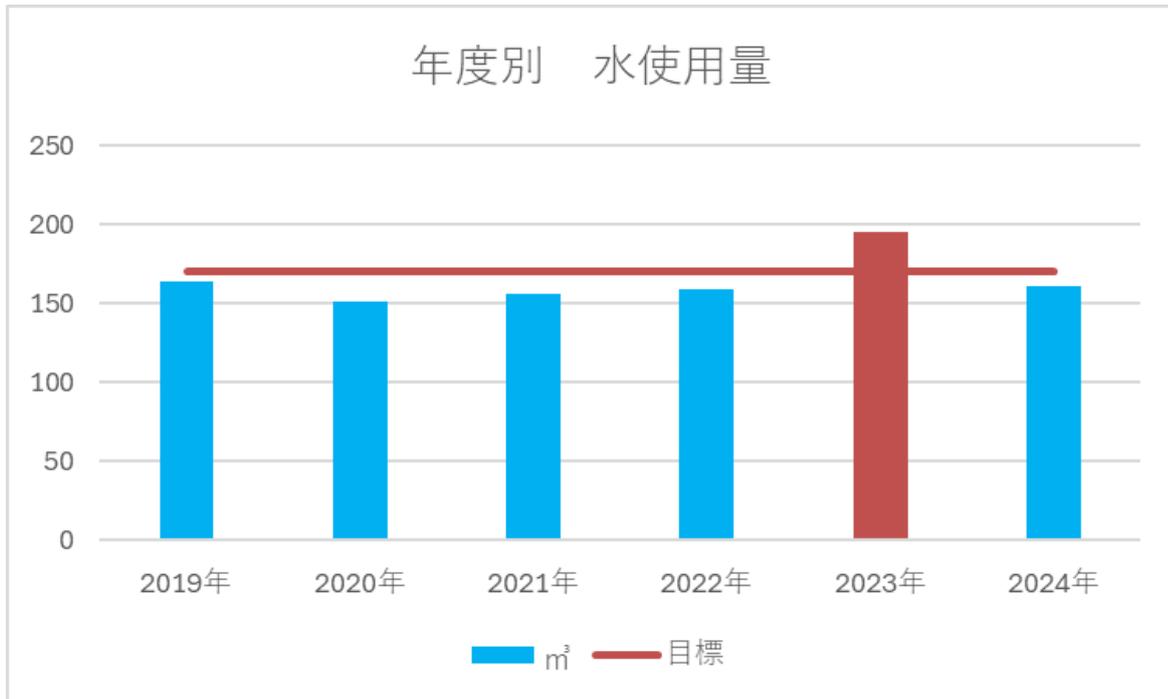
#### (4) 水使用量について

今年度の実績値は 160.5m<sup>3</sup> となり、目標値の 170m<sup>3</sup> を下回った。

以下に年度別の水使用量のグラフを指し示す。

ここ近年はほぼ横ばいである。従業員の節水の意識も定着している。

引き続きこの結果を維持できるように努めたい。



#### (5) 製品・サービスの環境性能向上について

2020 年度より「顧客より、①加工精度向上、②生産性向上、③寿命延長 等のよい評価が得られた、設計・製造した治具を 1 件／年以上納入実績を得る」ことをテーマに取り組んできたが、今年度は 1 件の納入を果たした。

	顧客	治具名称	納入年月	対象項目
1	ヤマハ発動機	外研治具の構造改善	2024 年 11 月	①製品の加工精度向上 ③治具寿命向上

## 7. 環境経営計画の取り組み結果とその評価、および次年度の環境経営計画

	活動内容	評価	コメント	次年度の取り組み内容
電気使用量低減	空調温度適正設定（夏季 25℃、冬季 20℃）※一部例外あり	○	消灯等は意識が定着してきた。 新たな室外機カバーによる電気使用量の低減は体感でやや効果を感じたので次年度も引き続き取り組むこととする。LED化や空調設備の更新は現在検討中。	継続
	外気活用による空調停止	○		継続
	使用していない設備や機器の電源 OFF	○		継続
	使用していない場所の消灯、外光活用	○		継続
	空調設備・工作機械フィルターの定期的清掃	○		継続
	蛍光灯の LED 化	△		次年度も予定
	空調設備の高効率化更新	△		次年度も予定
	室外機カバーによる電気使用量の低減	○		次年度も予定
燃費向上	「ふんわりアクセル」「早めのアクセルオフ」を心がける	○	意識定着。 ※社用車については別途記載	継続
	ハイブリッドカーの導入	○	導入	次年度は未定
ガス使用量低減	冬季、温水を流しっぱなしにしない	○	意識定着。	継続
一般廃棄物 排出量低減	コピー用紙の裏紙利用	○	意識定着。できることからペーパーレス化を検討していきたい。	継続
	雑紙リサイクル推進	○		継続
	DX 促進によるペーパーレス化	△		継続
産業廃棄物 排出量低減	梱包資材（段ボール、緩衝材）のリユース推進	○	意識定着。	継続
廃油 排出量低減	専用装置で工作機械のクーラント液の汚れをこまめに除去	○		継続
	汚れた軍手・ウエスを掃除時にリユース	○		継続
混合廃棄物 排出量低減	分別強化し、金属リサイクルに回す	○		継続
水使用量低減	水を流しっぱなしにしない	○	意識定着。	継続
製品・サービスの環境性能向上	製品・サービスの環境性能向上を推進する	○	次年度以降も 1 件／年以上を目指す。	継続
化学物質の管理	油漏れがないかの日常点検	○	作業前に各自確認	継続

※社用車について

以下が社用車 5 台の今年度の状況である。

	2024年度	2023年度	
	平均燃費(km/L)	平均燃費	燃費向上率
社用車①	12.06	12.34	-2%
社用車②	13.16	12.39	6%
社用車③	6.4	6.6	-3%
社用車④	20.02	15.79	27%
社用車⑤	21.10		

2024 年度も昨年に引き続き、社用車⑤を新たに導入し、ハイブリッドカーへ変更した。

これにより、社内におけるハイブリッド車は 2 台体制となった。

代わりに社用車②は今年度までとなる。

この変更により、社用車全体の燃費の向上が期待された。

実際に社用車全体の平均燃費は 2023 年度が **11.79 km/L** だったのに対して、**14.55 km/L** と **23%**の向上が見られた。

一方、社用車①および③に関しては、燃費の低下が見られた。社用車①は **12.34km/L**（前年比 **-2%**）、社用車③は **6.4km/L**（前年比 **-3%**）である。社用車③は改善傾向にあるものの、依然として燃費効率が低く、運転方法や車両状態の見直しも継続していく。

なお、来年度以降の社用車の更新に関しては検討中である。

引き続き「ふんわりアクセル」や「早めのアクセルオフ」など、エコドライブの基本動作を継続的に実践し、車両性能を最大限に活かすことで、燃料消費の抑制と環境負荷の低減を図っていく方針である。

## 8. 環境関連法規などの遵守状況の確認および評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

環境関連法規等の遵守状況を下記表に基づき確認致しました。

産業廃棄物管理票に関し、交付等状況報告書の提出をいたしました。

尚、関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟や苦情は過去5年間ない。

法律	要求事項・遵守事項	関連施設/該当事項	実施事項				評価	評価日	評価者
				保管場所	容量	委託業者			
廃棄物 処理法	廃棄物保管 基準の遵守	廃棄物保管場所	廃油	事業所内 北倉庫	200ℓドラム缶 2本	天星製油 (株)	○	2025/ 9/5	久米
			ウエス (廃油扱い)	北倉庫外 (屋外)	200ℓドラム缶	(有)オオタ サービス			
			混合廃棄物	北倉庫外 (屋外)	200ℓドラム缶	(有)オオタ サービス			
			汚泥	研磨室	20ℓペール缶	(有)オオタ サービス			
			がれき類	北倉庫外 (屋外)	0.5 m <sup>3</sup> コンテナ	(有)オオタ サービス			
			木くず	北倉庫外 (屋外)	m <sup>3</sup>	(有)オオタ サービス			
			処理委託先との 契約書締結	産廃処理 委託契約書	委託先	委託契約書			
					処分業	収集運搬業			
	天星製油 (株)	あり			令和10年 8月5日	令和10年 7月30日			
	(有)オオタ サービス	あり			令和8年 7月9日	令和8年 7月9日			
委託先への 実地確認	(有)オオタ サービス	実地確認済。 ※天星製油(株)と(株)リサイクルクリーンは優良業者につき実地確認不要。				○	2025/ 9/5	久米	
		産業廃棄物 管理票の 運用管理	産業廃棄物 管理票	マニフェストの保管管理5年間		○	2025/ 9/5	久米	
交付等状況報告書の提出				○	2025/ 9/5	久米			
浄化槽 法	浄化槽の 設置届	合併浄化槽 21人槽1基 放流先:側溝	汚水処理施設点検報告書ファイルへの保管管理			○	2025/ 7/9	久米	
			保守点検(1回/3ヶ月)			○	2025/ 7/9	久米	
			清掃(1回/年)			○	2025/ 7/9	久米	
			法定検査(1回/年)			○	2025/ 7/9	久米	

騒音規制法	騒音規制法特定施設の届出	特定施設：空気圧縮機	届出書の提出と変更管理	○	2025/9/5	久米
		コンプレッサー 11kW 1台 15kW 1台	規制基準の現状確認（浜松市第2種区域）	○	2025/9/5	久米
振動規制法	振動規制法特定施設の届出	特定施設：空気圧縮機	届出書の提出と変更管理	○	2025/9/5	久米
		コンプレッサー 11kW 1台 15kW 1台	規制基準の現状確認（浜松市第1種区域の2）	○	2025/9/5	久米
フロン排出抑制法	業務用冷凍空調機器	エアコン（室外機）22台 クーラント設備（工作機械用） 14台	簡易自主点検：点検記録表にて管理	○	2025/9/5	久米
労働安全衛生法	圧力容器安全規則88条に基づく自主検査とその記録3年間	コンプレッサー 11kW 1台 15kW 1台	毎年末、機械本体添付の「機械整備チェック表」にて管理	○	2025/9/5	久米
	第57条の3	化学物質	「化学物質管理表」にて、品名、用途を明らかにし、危険有害性を管理	○	2025/9/5	久米
化学物質排出把握管理促進法	PRTR制度	対象物質： N, N-ジシクロヘキシルアミン	従業員21人未満であり、かつ、年間使用量は最大でも20ℓにつき、排出量の届け出義務なし	○	2025/9/5	久米
	SDS制度		「化学物質管理表」にて、品名、用途を明らかにし、SDSを管理	○	2025/9/5	久米
消防法	（危険物管理）少量危険物管理	工場内保有	「化学物質管理表」にて管理。 管轄消防署の協力と助言を基に適切に管理	○	2025/9/5	久米

## 9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

本年は昨年同様にカーボンニュートラルへ直接寄与する施策と、新たに将来へ向けた施策を進めて参りました。

直接寄与する対策としては、昨年同様にLED化や空調設備の更新を行いました。こちらは今後も随時行い、生産性向上に対する電気使用量の低減が可能な工場レイアウトを目指しております。

新たな施策としてはDXの深化をテーマに、よりペーパーレス化・工程進捗の見える化・設備稼働率の見える化が可能なアプリの開発を行ってきました。将来的には会社全体の生産性を見える化すると共に、CN活動のネックになっている部分を数値的に見える化することで、更なるCN活動の推進に繋がる要素を顕在化させ、将来を見据えた活動が出来る体制も整えている状況になります。

今までのQDCベースでの良い製品ではなく、今後はQDC+CO2排出量が求められる時代ですので、より競争力を高めるためにCN活動に邁進してまいります。

	項目	変更の必要性	コメント
1	環境経営方針	なし	
2	環境経営目標	なし	
3	環境経営計画	なし	
4	実施体制	なし	

2025年11月28日  
代表取締役 内田成俊